教員おすすめ図書コーナー推薦書

教　員　氏　名 永田　瞬　先生	おすすめメッセージ
① 図書名：『チームのことだけ、考えた。』 著　者： 青野慶久 出版社：ダイヤモンド社　　ISBN：9784478068410	サイボウズ立ち上げから、多様な働き方を実現するまでのプロセスが生き生きと語られる。スタートアップ企業にありがちな長時間労働を回避するため、「世界一のソフトウェアグループを目指す」というミッションをつくる。組織内部での共通コンセプトづくりや議論の仕方などの事例が紹介される。青野氏自身が、自分自身の古い価値観とぶつかり、それをアップデイトしてきたことがわかる。カンブリア宮殿出演時の映像（2020 年 7 月 2 日放送）と一緒に見ると理解が深まります。
② 図書名：『ブルシット・ジョブ――クソどうでもいい仕事の理論』 著　者：デヴィッド・グレーバー（酒井隆史他訳） 出版社：岩波書店　　ISBN：9784000614139	世界中でクソどうでもいい仕事が増えている。単純作業ということだけではなく、金融業界のエリートのなかにもその仕事の意味が見いだせない状況が広がっている。文化人類学者の筆者は、世界中の当事者から仕事内容を収集し、その特徴をブルシット・ジョブ bullshit job と名付けた。書類づくりや本来の目的とは異なる方向への仕事が増える中で、この本をよむととても考えさせられる。大著ですが、世界中の仕事の悩み的なことがちりばめられており、納得しながら読めます。
③ 図書名：『働き方改革の世界史』 著　者：濱口桂一郎・海老原嗣生 出版社：筑摩書房　　ISBN：9784480073310	筆者によればトレードからジョブへは万国共通、一律ではない。むしろ米国におけるジョブコントロール・ユニオニズム、ドイツにおける共同経営＝パートナーシップなど、各国の労使関係の位置づけが異なる。読者は、企業外部との接続関係が弱い、企業別組合のアップデイトを測ろうとする筆者の理論的背景を知ることができる。原典の簡潔な解説があり、復習があり、最後に濱口と海老原の討論がある。授業を聞いているようで、繰り返しその意味が吟味できる感覚。原典を読みたくなるしかけ満載で、テーマ的にはややマニアックではあるけれども、勉強になる。